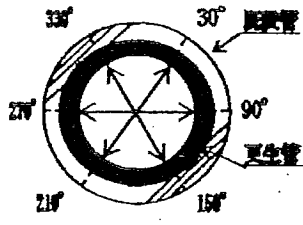
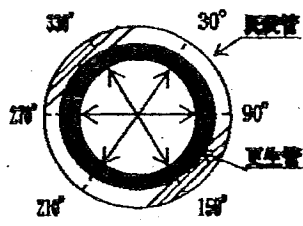
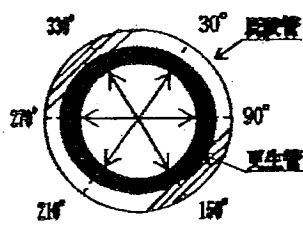
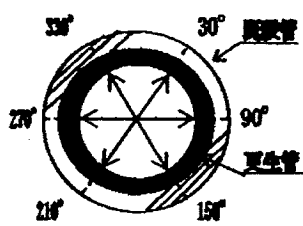
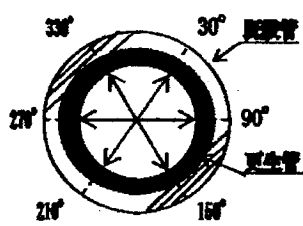


9-2. 別表「出来形管理基準及び規格値」(管路施工/更生工事)

区分	工種	管理項目	規格値	測定箇所
管 路 施 設 工 事	管きよ更生工	(1)寸法管理	6箇所の平均更生管厚が設計更生管厚以上で、かつ上限は+20%以内とし、測定値の最小値は設計更生管厚以上とする。 なお、既設管の流下能力を下回らないものとし、更生後必要最小管径以上確保していること。	
	反転工法	(2)更生管きよの厚み・内径管理		
	熱硬化	(3)内面仕上がり状況の管理		
	(4)マンホール内管口の外観管理			
	管きよ更生工	(1)寸法管理	6箇所の平均更生管厚が設計更生管厚以上で、かつ上限は+20%以内とし、測定値の最小値は設計更生管厚以上とする。 なお、既設管の流下能力を下回らないものとし、更生後必要最小管径以上確保していること。	
反転工法	(2)更生管きよの厚み・内径管理			
光硬化	(3)内面仕上がり状況の管理			
	(4)マンホール内管口の外観管理			
	管きよ更生工	(1)寸法管理	6箇所の平均更生管厚が設計更生管厚以上で、かつ上限は+20%以内とし、測定値の最小値は設計更生管厚以上とする。 なお、既設管の流下能力を下回らないものとし、更生後必要最小管径以上確保していること。	
形成工法	(2)更生管きよの厚み・内径管理			
熱硬化	(3)内面仕上がり状況の管理			
	(4)マンホール内管口の外観管理			

管 理 基 準	管 理 方 法	写 真 管 理 基 準
<p>①更生管厚は、人が入って測定できない場合には、1スパンの上下流マンホールの管口付近、さらに人が入ることができる場合には、中間部付近でも既設管きよと更生管きよの内径差により更生管厚を6箇所以上測定する。</p> <p>②更生管きよの内径は、硬化直後と24時間以降で6箇所以上測定する。</p> <p>③更生管厚は、更生管の縫い目を避けて行い、内面コーティングフィルムや外面保護フィルムを除く更生材本体の硬化後の仕上り厚とする。</p> <p>④更生管と既設マンホールとの取り付け箇所仕上げ部においては、浸入水、仕上げ材の剥離及びひび割れ等の無いことを確認する。</p>	<p>測定値は、「出来形管理報告書」に記録する。</p>	<p>測定状況並びに施工状況（管内部、管口部及び更生管厚さ等）を適宜撮影する。</p>
<p>①更生管厚は、人が入って測定できない場合には、1スパンの上下流マンホールの管口付近、さらに人が入ることができる場合には、中間部付近でも既設管きよと更生管きよの内径差により更生管厚を6箇所以上測定する。</p> <p>②更生管きよの内径は、硬化直後と24時間以降で6箇所以上測定する。</p> <p>③更生管厚は、更生管の縫い目を避けて行い、内面コーティングフィルムや外面保護フィルムを除く更生材本体の硬化後の仕上り厚とする。</p> <p>④更生管と既設マンホールとの取り付け箇所仕上げ部においては、浸入水、仕上げ材の剥離及びひび割れ等の無いことを確認する。</p>	<p>測定値は、「出来形管理報告書」に記録する。</p>	<p>測定状況並びに施工状況（管内部、管口部及び更生管厚さ等）を適宜撮影する。</p>
<p>①更生管厚は、人が入って測定できない場合には、1スパンの上下流マンホールの管口付近、さらに人が入ることができる場合には、中間部付近でも既設管きよと更生管きよの内径差により更生管厚を6箇所以上測定する。</p> <p>②更生管きよの内径は、硬化直後と24時間以降で6箇所以上測定する。</p> <p>③更生管厚は、更生管の縫い目を避けて行い、内面コーティングフィルムや外面保護フィルムを除く更生材本体の硬化後の仕上り厚とする。</p> <p>④更生管と既設マンホールとの取り付け箇所仕上げ部においては、浸入水、仕上げ材の剥離及びひび割れ等の無いことを確認する。</p>	<p>測定値は、「出来形管理報告書」に記録する。</p>	<p>測定状況並びに施工状況（管内部、管口部及び更生管厚さ等）を適宜撮影する。</p>

区分	工 種	管 理 項 目	規 格 値	測 定 箇 所
管 路 施 工	管きよ更生工  形成工法  光硬化	(1)寸法管理  (2)更生管きよの厚み・内径管理  (3)内面仕上がり状況の管理  (4)マンホール内管口の外観管理	6箇所の平均更生管厚が設計更生管厚以上で、かつ上限は+20%以内とし、測定値の最小値は設計更生管厚以上とする。 なお、既設管の流下能力を下回らないものとし、更生後必要最小管径以上確保していること。	
	管きよ更生工  形成工法  熱形成	(1)寸法管理  (2)更生管きよの厚み・内径管理  (3)内面仕上がり状況の管理  (4)マンホール内管口の外観管理	6箇所の平均更生管厚が設計更生管厚以上で、かつ上限は+20%以内とし、測定値の最小値は設計更生管厚以上とする。 なお、既設管の流下能力を下回らないものとし、更生後必要最小管径以上確保していること。	

管 理 基 準	管 理 方 法	写 真 管 理 基 準
<p>①更生管厚は、人が入って測定できない場合には、1スパンの上下流マンホールの管口付近、さらに人が入ることができる場合には、中間部付近でも既設管きよと更生管きよの内径差により更生管厚を6箇所以上測定する。</p> <p>②更生管きよの内径は、硬化直後と24時間以降で6箇所以上測定する。</p> <p>③更生管厚は、更生管の縫い目を避けて行い、内面コーティングフィルムや外面保護フィルムを除く更生材本体の硬化後の仕上り厚とする。</p> <p>④更生管と既設マンホールとの取り付け箇所仕上げ部においては、浸入水、仕上げ材の剥離及びひび割れ等の無いことを確認する。</p>	<p>測定値は、「出来形管理報告書」に記録する。</p>	<p>測定状況並びに施工状況（管内部、管口部及び更生管厚さ等）を適宜撮影する。</p>
<p>①更生管厚は、人が入って測定できない場合には、1スパンの上下流マンホールの管口付近、さらに人が入ることができる場合には、中間部付近でも既設管きよと更生管きよの内径差により更生管厚を6箇所以上測定する。</p> <p>②更生管きよの内径は、硬化直後と24時間以降で6箇所以上測定する。</p> <p>③更生管厚は、更生管の縫い目を避けて行い、内面コーティングフィルムや外面保護フィルムを除く更生材本体の硬化後の仕上り厚とする。</p> <p>④更生管と既設マンホールとの取り付け箇所仕上げ部においては、浸入水、仕上げ材の剥離及びひび割れ等の無いことを確認する。</p>	<p>測定値は、「出来形管理報告書」に記録する。</p>	<p>測定状況並びに施工状況（管内部、管口部及び更生管厚さ等）を適宜撮影する。</p>

区分	工種	管理項目	規格値	測定箇所
管 路 施 設 工 事	管きよ更生工	(1)寸法管理	・円形管 既設管呼び径 300mm ≤ D ≤ 3000mm	
	製管工法	(2)更生管きよの内径管理	許容値 +20mm以内	
	嵌合製管 (SPR工法)	(3)内面仕上がり状況の管理 (4)マンホール内管口の外観管理		
管 路 施 設 工 事	管きよ更生工	(1)寸法管理	・円形管 既設管呼び径 300mm ≤ D ≤ 1000mm	
	製管工法	(2)更生管きよの内径管理	許容値 -20mm以内	
	嵌合製管 (ダブ工法)	(3)内面仕上がり状況の管理 (4)マンホール内管口の外観管理	既設管呼び径 1000mm ≤ D ≤ 1350mm 許容値 -30mm以内 既設管呼び径 1500mm ≤ D ≤ 2000mm 許容値 -40mm以内 既設管呼び径 2200mm ≤ D ≤ 2400mm 許容値 -50mm以内 既設管呼び径 2600mm ≤ D ≤ 3000mm 許容値 -60mm以内	
管 路 施 設 工 事	管きよ更生工	(1)寸法管理	・円形管 既設管呼び径 300mm ≤ D < 1000mm	
	製管工法	(2)更生管きよの内径管理	許容値 +20mm以内	
	嵌合製管 (ハブ70-リング工法)	(3)内面仕上がり状況の管理 (4)マンホール内管口の外観管理	既設管呼び径 1000mm ≤ D ≤ 3000mm 許容値 +30mm以内	

管 理 基 準	管 理 方 法	写 真 管 理 基 準
<p>①更生管厚は、人が入って測定できない場合には、1スパンの上下流マンホールの管口付近、さらに人が入ることができる場合には、中間部付近でも更生管きよの内側中央高さかつ幅の2箇所の仕上がり内径を測定する。</p> <p>②更生管の変形、浮上による縦断勾配の不陸等の欠損や異常個所の無いことを確認する。</p> <p>③更生管と既設マンホールとの取り付け箇所仕上げ部においては、浸入水、仕上げ材の剥離及びひび割れ等の無いことを確認する。</p> <p>④2箇所の平均更生内径が設計更生内径以上とする。なお、既設管の流下能力を下回らないものとし、更生後必要最小管径以上確保していること。</p>	<p>測定値は、「出来形管理報告書」に記録する。</p>	<p>測定状況並びに施工状況（管内部、管口部及び充填材の注入、更生管径等）を適宜撮影する。</p>
<p>①更生管厚は、人が入って測定できない場合には、1スパンの上下流マンホールの管口付近、さらに人が入ることができる場合には、中間部付近でも更生管きよの内側中央高さかつ幅の2箇所の仕上がり内径を測定する。</p> <p>②更生管の変形、浮上による縦断勾配の不陸等の欠損や異常個所の無いことを確認する。</p> <p>③更生管と既設マンホールとの取り付け箇所仕上げ部においては、浸入水、仕上げ材の剥離及びひび割れ等の無いことを確認する。</p> <p>④2箇所の平均更生内径が施工計画書に明記したダンビー工法設計更生内径以上とする。なお、既設管の流下能力を下回らないものとし、更生後必要最小管径以上確保していること。</p>	<p>測定値は、「出来形管理報告書」に記録する。</p>	<p>測定状況並びに施工状況（管内部、管口部及び充填材の注入、更生管径等）を適宜撮影する。</p>
<p>①更生管厚は、人が入って測定できない場合には、1スパンの上下流マンホールの管口付近、さらに人が入ることができる場合には、中間部付近でも更生管きよの内側中央高さかつ幅の2箇所の仕上がり内径を測定する。</p> <p>②更生管の変形、浮上による縦断勾配の不陸等の欠損や異常個所の無いことを確認する。</p> <p>③更生管と既設マンホールとの取り付け箇所仕上げ部においては、浸入水、仕上げ材の剥離及びひび割れ等の無いことを確認する。</p> <p>④2箇所の平均更生内径が設計更生内径以上とする。なお、既設管の流下能力を下回らないものとし、更生後必要最小管径以上確保していること。</p>	<p>測定値は、「出来形管理報告書」に記録する。</p>	<p>測定状況並びに施工状況（管内部、管口部及び充填材の注入、更生管径等）を適宜撮影する。</p>

区分	工種	管理項目	規格値	測定箇所
管 路 施 工 事	管きよ更生工	(1) 寸法管理	・円形管 既設管呼び径 $800\text{mm} \leq D \leq 2600\text{mm}$ 許容値 $+20\text{mm}$ 以内	
	製管工法	(2) 更生管きよの内径管理		
	嵌合製管	(3) 内面仕上がり状況の管理		
	(3Sセメント工法)	(4) マンホール内管口の外観管理		
	管きよ更生工	(1) 寸法管理	・円形管 既設管呼び径 $800\text{mm} \leq D$ 許容値 $+20\text{mm}$ 以内	
	製管工法	(2) 更生管きよの内径管理		
	嵌合製管	(3) 内面仕上がり状況の管理		
	(PFL工法)	(4) マンホール内管口の外観管理		

管 理 基 準	管 理 方 法	写 真 管 理 基 準
<p>①更生管厚は、人が入って測定できない場合には、1スパンの上下流マンホールの管口付近、さらに人が入ることができる場合には、中間部付近でも更生管きよの内側中央高さと同幅の2箇所の上上がり内径を測定する。</p> <p>②更生管の変形、浮上による縦断勾配の不陸等の欠損や異常個所の無いことを確認する。</p> <p>③更生管と既設マンホールとの取り合い箇所仕上げ部においては、浸入水、仕上げ材の剥離及びひび割れ等の無いことを確認する。</p> <p>④2箇所の平均更生内径が設計更生内径以上とする。なお、既設管の流下能力を下回らないものとし、更生後必要最小管径以上確保していること。</p>	<p>測定値は、「出来形管理報告書」に記録する。</p>	<p>測定状況並びに施工状況（管内部、管口部及び充填材の注入、更生管径等）を適宜撮影する。</p>
<p>①更生管厚は、人が入って測定できない場合には、1スパンの上下流マンホールの管口付近、さらに人が入ることができる場合には、中間部付近でも更生管きよの内側中央高さと同幅の2箇所の上上がり内径を測定する。</p> <p>②更生管の変形、浮上による縦断勾配の不陸等の欠損や異常個所の無いことを確認する。</p> <p>③更生管と既設マンホールとの取り合い箇所仕上げ部においては、浸入水、仕上げ材の剥離及びひび割れ等の無いことを確認する。</p> <p>④2箇所の平均更生内径が設計更生内径以上とする。なお、既設管の流下能力を下回らないものとし、更生後必要最小管径以上確保していること。</p>	<p>測定値は、「出来形管理報告書」に記録する。</p>	<p>測定状況並びに施工状況（管内部、管口部及び充填材の注入、更生管径等）を適宜撮影する。</p>